

京都

KYOTO

不思議ふしぎ?!

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

一年生と一回生 どう違う？

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都 検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所

秋といえば、最近話題となっているのが大学の秋入学制度です。東大が秋入学に舵を切ったのに対し、京大は不採用を宣言。これは京大はアンチ東大だから、などという単純な問題ではありません。

皆さんは関東の大学は一年生、二年生。関西の大学は一回生、二回生ということをご存じですね。これはどう違うのでしょうか。

明治十年（一八七七）に創立した東京大学は、一年ごとに履修しなければならぬ単位が決められている学年制を

採用したのに対し、明治三十年（一八九七）に創立した京都大学は、必要な単位を卒業までに取得すればよいという科目制を採用しました。

東大は年ごとに所定単位を取得できない場合落第するのに対し、京大は一年単位で物事を考えるのではなく、極端にいえば三年間海外放浪しても落第せず大学に復帰できました。つまり東大は二年生は一年の単位をクリアした人だけがなれるため、年数の違いに意味がありますが、京大は年を重ねてもどこまで

履修が進んでいるかわからないため、年数には意味がなく、大学で何回春を迎えたかというところで回生と表現したわけです。

これは確実にステップアップしていく人材を育成するのに適した東大と、常に全体を見通し自由な発想を自分で組み立てていく京大の違いでしょう。「自由」を標榜する京大の学風はこれを象徴しています。年生と回生の違いは主に東大型の学年制を採用した関東の大学と、京大型の科目制を採用した関西の

大学の違いというわけです。

九月の入学制度は、世界の七割が採用している秋入学に合わせて、国際化する社会と適応、交流するためのものでしょうが、前提となる入試時期やギャップイヤーなど様々な問題も孕んでいます。

どのようなことになるにせよ、毎年大雪で交通が麻痺する中、半泣き状態で試験場に駆けつける受験生が、充分にその実力を発揮し、飛躍できる制度であってほしいものです。

（京都学園大学非常勤講師 堤勇二）



東京大学 安田講堂



京都大学 百周年時計台記念館



旧制三高初代校長折田彦市像
「自由の学風」立役者
近年は別の「自由」の象徴に……